

# 飛 翔



伊 佐 美 帆 子

**岩佐美帆子女流2級**

生年月日 2005年8月15日(17歳)

出身地 岐阜県岐阜市

師 匠 豊島将之九段

日本将棋連盟  
岐阜県支部連合会  
2022年2号

# 令和4年岐阜県支部連合会の大会（1）

## 1. 公文杯第47回小学生名人戦岐阜県大会（R04.02.06）

同日に第29回全国シニア将棋名人戦も開催しました。この時期は、岐阜県に「まん延防止等重点処置」が適用されていたので、中日小学生大会は中止またシニア名人戦も参加者を限定して開催しました。また、厳しい状況の中で星野良生五段に来て頂き、指導そして優勝者・入賞者への表彰もしていただきました。



## 2. 第51回将棋支部名人戦・支部対抗戦（R04.03.06）

コロナ禍における開催になりましたので、岐阜県代表戦のみを開催しました。岐阜県には10支部がありますが、支部対抗戦は7チーム21名、支部名人戦は14名の参加になりました。写真は名人戦決勝の様で中央は優勝した磯谷祐維さんです。支部対抗戦は、岐阜棋友会支部が優勝しました。



## 3. 第13回岐阜市長杯争奪将棋大会（R04.03.27）

やはりコロナ禍の大会になりましたが、73名の参加があり、愛知県・三重県など県外からの参加者も多数ありました。写真は、小学生高学年大会の様子です。

高学年の部の参加者数は23名で優勝者は犬山市の加藤準君、低学年の部は22名参加で各務原市の片山竜治君が優勝しました。



## 4. 第35回アマチュア竜王戦

### 第27回読売新聞杯争奪将棋大会（R04.04.03）

ここ2年はコロナのために大会が中止になっていましたが、久しぶりの大会です。岐阜県代表戦以外の大会には愛知県・滋賀県・神奈川県・京都府など遠方からの参加もあり83名の参加でした。優勝して岐阜県代表になったのは、伊藤誇吾君（小学6年）でした。若い世代が成長していて将来が楽しみ。写真は代表戦の様です。



## 5. 第21回全国小学生倉敷王将戦（R04.04.17）

この大会は、小学生高学年の部と低学年の部に分けて開催し、それぞれの優勝者は伊藤誇吾君、片桐周弥君でした。全国大会では伊藤誇吾君はベスト8まで進みました。歴史をたどれば倉敷市は大山康晴十五世名人の生誕の地でいわば聖地にあたります。



6. 第43回全国中学生選抜将棋選手権（第24回女子の部併催）

岐阜県代表戦を4月17日に開催しました。この優勝者は山形県天童市で開催の全国大会に参加しました。

中学生選抜将棋選手権は紀平倬佑君、女子の部は大西徳美さんがそれぞれ優勝しました。

対局者の真剣かつ読みに集中している様子そして緊張感がよく伝わってきます。



7. 第58回全国高等学校将棋選手権兼第46回全国高等学校総合文化祭将棋部門岐阜県大会

高校将棋選手権岐阜県大会が5月15日に日光コミュニティセンターで行われました。

参加者数は、男子個人戦は17校69名、女子個人戦は4校12名、男子団体戦は4校7チーム、女子団体戦は3校3チームでした。持ち時間20分切れ負けの厳しい条件です。熱戦の様子がよくわかります。



8. 文部科学大臣杯第18回小・中学校将棋団体戦

コロナ感染流行により2年間中止されていましたが文部科学大臣杯が開催されました。この大会は各学校単位の3名で1チームを構成します。小学校は6チーム18名、中学校は6チーム18名の参加でした。優勝校は大垣市立北小学校及び神戸町立神戸中学校でした。両校とも全国大会では、それぞれグループ2位の立派な成績でした。



9. 第76回全日本アマチュア将棋名人戦

第27回中日新聞楯争奪将棋大会も併催しA級・B級・小学高学年・小学低学年に分けて行われました。最高の栄誉であるアマチュア名人を目指して県下の強豪24名が参加しました。優勝は写真中央の伊藤奨さん、準優勝は加藤慎士さん、3位は斎藤健雄さんでした。また、中日新聞楯争奪大会には54名の参加がありました。



10. 第35回高等学校将棋竜王戦

7月10日に開催しました。コロナ禍において2年間中止してしまっていたので、3年生にとっては初めての大会そして最後の大会になりました。この大会は高校選手権と違い団体戦及び男女別はありません。16校83名の参加があり、うち14名が女子でした。予選リーグを通過した女子は5名で決勝トーナメントには2名進出しました。優勝は鶯谷高校3年の加藤慎士君、準優勝は同校2年の宮堂孔暉君、3位は多治見北高校2年の富田文希君でした。



### 1 1.令和4年度第1回定期順位戦（7月17日開催）

定期順位戦は岐阜県独自の大会で、S級・A級・B級・小学高学年・小学低学年の通常の5クラスの他に初心者のためにC級を設けています。全部で83名の参加があり、うちC級には9名の参加があり林旺志郎小4が優勝し準優勝は北澤遥輝中2?でこれからの成長が楽しみです。写真は小学高学年の上位入賞者です。



### 1 2.令和4年度第2回定期順位戦（8月28日開催）

今回は6クラスに76名の参加がありました。愛知県三重県・静岡県など他県からも多くの参加がありました。

今まで高学年や低学年のクラスに参加していた子がA級やB級に参加。各級に優勝や上位入賞をそれぞれ2人が成績をあげました。写真はC級優勝の西部詩織さん、準優勝の田中彩蕾（小4）さんです。



### 1 3.令和4年度第3回定期順位戦（9月18日開催）

定期順位戦は、大会に参加した子供達中心に毎回岐阜県下の公認将棋指導員が指導対局を行っております。

岐阜県には棋道指導員7名及び将棋指導員26名おり、将棋の普及及び発展にご尽力頂いております。写真は将棋指導員による指導対局の様です。



### 1 4.ぎふしん杯第2回こども将棋岐王戦

令和4年10月2日に岐阜新聞社・岐阜放送様主催で岐阜信用金庫様に特別協賛して頂き、岐王戦を開催しました。参加者は80名で岐阜県だけでなく2府5県からの参加がありました。今回は保護者様にも対局を観戦していただける様にしました。子供達の集中している対局態度そして緊張感溢れる様子が伝わります。高田明浩四段による指導対局もありました。



### 1 5 岐阜県将棋フェスティバル大会

令和4年11月6日に将棋フェスティバル大会を開催しました。当日はキムタク信長祭及び名古屋市でのJT杯と日程が重なり小学生の参加が極端に減少してしまいました。プロ棋士の村田顕弘六段をお招きし、また将棋指導員による指導対局も同時に行いました。

指導対局は大会参加者だけでなく一般の方も指導を受けることができるため、指導員の一部の方には二面指しをお願いしました。村田先生は対局終了後には子供達に丁寧な解説をして頂きました。





# 【将棋フェスティバル2022 決勝戦】

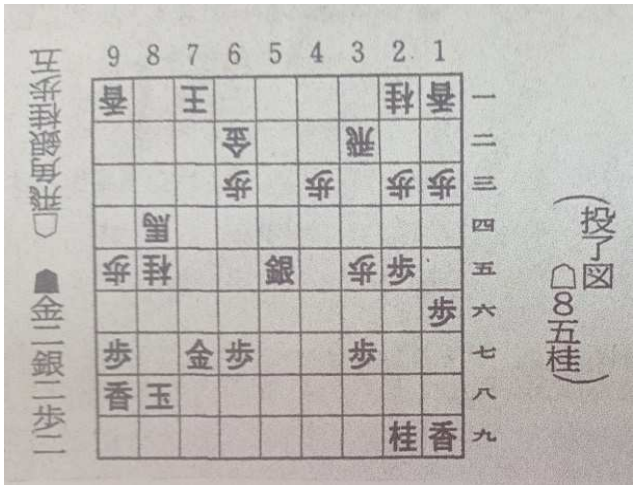
岐阜県将棋フェスティバル2022(日本将棋連盟岐阜県支部連合会主催)からチャンピオン戦S級決勝戦を紹介いたします。定期順位戦(第1~3回)のポイント獲得上位者が参加できる。S級決勝は先手土谷正登さんと後手戸田博士さんの対戦です。持ち時間は各20分、使い切ると30秒の秒読みがつきます。両者優勝を目指してお互いに火花を散らし対局が始まりました。この大会には村田顕弘六段が訪れて熱戦を見守り、その後指導対局を行いました。

## ＜将棋フェスティバル2022 S級決勝戦＞ (2022.11.5)

(先)土谷正登(3勝0敗) VS (後)戸田博士(3勝0敗) ハートフルスクエア-G

▲26歩	△34歩	▲88玉	△53銀	▲68角	△42角	▲66飛	⑥ △87歩
▲48銀	△54歩	② ▲98香	△64銀	▲46飛	△52金	▲77銀	△同銀成
▲56歩	① △52飛	▲99玉	△72銀	④ ▲55歩	△同歩	▲同桂	△88銀
▲68玉	△62玉	▲88銀	△74歩	▲45飛	△53角	▲同金上	△同歩成
▲57銀	△42銀	▲59金右	△84歩	▲55銀	△65銀	▲同玉	△47角成
▲25歩	△33角	▲68金右	△83銀	⑤ ▲86角	△同角	▲84銀	△62金左
▲76歩	△72玉	▲79金	③ △72金	▲同歩	△85歩	▲83銀成	△同玉
▲78玉	△82玉	▲78金寄	△35歩	▲同歩	△76銀	▲84歩	△同玉
▲66銀	△94歩	▲26飛	△32飛	▲46飛	△56歩	⑦ ▲85歩	△83玉
▲77角	△95歩	▲16歩	△73桂	▲同飛	△65角	▲86飛	△75銀

▲84銀	△82玉	▲85歩	△77歩成
▲75銀	△同歩	▲同金	⑨ △85桂
▲84歩	⑧ △76金	104手で 後手の戸田博士さんの勝ち	
▲83銀	△71玉		
▲72銀不成	△同金		
▲53角	△62銀		
▲76飛	△同歩		
▲62角成	△同金		
▲83歩成	△同馬		
▲84歩	△同馬		



- ①先手居飛車、後手中飛車でスタート。
- ②土屋さん穴熊の意思表示。その後お互いに囲いを優先した。
- ③後手は片美濃から銀冠へと囲いを整備し戦線を拡大していく。
- ④55歩で駒がぶつかった。同歩、45飛車で35と55ににらみをきかす。先手土谷さんとしては思い切って飛車を交換するか、5筋から攻めるか2つに1つだ。53角で飛車交換を拒否。55銀で65銀で銀交換を拒否し虚々実々の駆け引きだ。ここは中盤の難所である。
- ⑤先手86角が悪手になった。同角、同歩、85歩、同歩、76銀と後手の駒が躍動してきた。穴熊の弱点である87に空間が労せずに出てしまったからである。
- ⑥痛い！この一手でしびれた。穴熊がほぼ消滅した。土谷さん苦しい局面だ。
- ⑦後手玉を上部へ誘い出す。先手の見せ場であるが後手が冷静に対応している。中々崩れない。
- ⑧玉頭に拠点を作り寄せに入る。先手はその後、76飛車と金を取り形作りである。
- ⑨後手の85桂を見て土谷さんが投了した。

敗着は角交換を狙った86角ではなかったか、66銀と引けばまだ難しかった。勝因は戸田さんの終始落ち着いた指し回しであった。4連勝での優勝は見事！！おめでとうございます。